
ダンサー・イン・ザ・ダーク

催吐剤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ダンサー・イン・ザ・ダーク

【Nコード】

N9633P

【作者名】

催吐剤

【あらすじ】

見てないけど、きつとこんな感じの話

不幸な事故で盲目となった天才ダンサーがいた。

塞ぎ込み、生きる希望を失っていた彼女に手を差し伸べる男がいた。

男はもう一度、彼女に舞台で踊って欲しいのだと説明した。

当然、彼女は断ったが、男はしつこかった。

「どうしても君のダンスが見たいんだ」

男の情熱的な言葉に折れ、彼女は再び舞台に上がることを決意した。

壮絶な練習を積み重ね、ついに本番を迎える。

本番当日。

暗闇の中にいる彼女は知らない。

かつての彼女のライバルや、彼女が凡人だと嘲笑い、見下していた者たちが舞台上の彼女を指差し笑っていることを。

「見るよ、なんて酷いまだ!」

だが、観客たちの笑い声は鳴り響く音楽に掻き消され、彼女の耳に届くことはない。

彼女は暗闇の中で踊る。素晴らしい出来だ、と彼女は思う。

舞台袖には「ドッキリ」と書かれたプラカードを持ち、ヘルメットを被った男が待機していることを彼女は知らない。

かつての勘を取り戻した彼女は夢中で踊り狂う。

仕掛人たちは彼女に早く打ち明けたいという気持ちを抑え、ダンスを見守る。

終盤に差し掛かったとき、悲劇が起きた。彼女が舞台から落ち、首の骨を折って死んだのだ。

こうして全てが台無しになったが、彼女の死に顔は幸福に見えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9633p/>

ダンサー・イン・ザ・ダーク

2011年1月8日21時18分発行